

平成28年度「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」表彰の伝達式

- 日時 平成29年1月6日（金）午後4時30分～
- 場所 障がい者総合福祉センター一訓練室



福島県教育委員会による「ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業」表彰で、「絆部門」で優秀賞に輝いた伊達市立梁川小学校4年の高橋麗菜さんと母親の高橋杏子さん、「復興部門」で佳作となった伊達市立伊達小学校6年の丸山久玲葉さんと母親の丸山辰枝さん、同じく佳作となった大玉村立大玉中学校1年の橋本鎌多さんと祖母の木下美子さんの三組へ賞状の伝達を行いました。

この事業は、家族など人と人との関わりの中で感じた思いや願いや震災からのさらなる復興を願った「ふくしま」への思い等を十七字で表現し、「絆」を深めることを目的として実施しています。

＜高橋麗菜さんと高橋杏子さんの作品＞

お母さんへの感謝の気持ちを目の前にしてはなかなか言えないので、仕事に行っている間に手紙を書いて渡すそうです。お母さんは手紙を読み返したり、手紙の内容を思い起こしたりしながら、いつも元気をもらっているとのこと。お母さんにとって手紙が一番のお守りだそうです。

＜丸山久玲葉さんと丸山辰枝さんの作品＞

妹と遊んでいる時に、震災後、屋外での活動が制限され、外で遊ぶことが少なかった頃の事を思い出したそうです。太陽の光をたくさん浴びて思い切り体を動かさせて嬉しかったとのこと。屋外でのびのびと活動し、小麦色になった娘達の肌を見て、とてもほほえましくなり作品にしたそうです。

＜橋本鎌多さんと木下美子さんの作品＞

たくさんの元気を福島の復旧・復興のために頑張っているボランティアの方々の姿からもらっているそうです。復興に向けて施設を建設するために整地をしていた田に、稲穂が残っていたのを見つけ、その力強さに感動し、作品にしたとのこと。式には、おばあちゃんの代わりに、お母さんが出席しました。）

「絆部門」優秀賞

ありがとう なかなか言えず 手紙書く

伊達市立梁川小学校 四年 高橋 麗菜

ポケットに 手紙しのぼせ おまもりに

母 高橋 杏子

「復興部門」佳作

日差しあび 姉妹で走る えみ浮かべ

伊達市立伊達小学校 六年 丸山久玲葉

母嬉し 娘の肌が 小麦色

母 丸山 辰枝

「復興部門」佳作

震災後 元気をくれる ボランティア

大玉村立大玉中学校 一年 橋本 鎌多

復興に 負けずとたれる 稲穂かな

祖母 木下 美子

最優秀賞の表彰は、1月6日（金）にホテルサンルートプラザ福島で行われました。県北地区からは、桑折町立半田醸芳小学校6年佐藤倫己さんと母親の佐藤淳子さん親子が表彰されました。（表彰式の様子は、福島県教育庁社会教育課ホームページでご覧いただけます。）

十七字のふれあい事業には、県北域内から4、246組の応募があり、県全体で41、502組ありました。たくさんの御応募ありがとうございました。